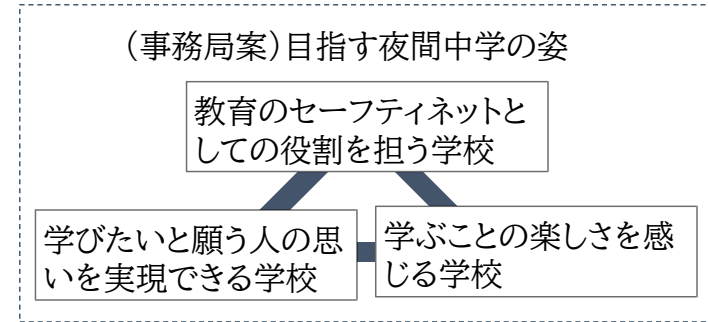


令和6年度第2回夜間中学設置支援委員会(R6.9.27)における主な内容及び意見

協議：課題3 教育理念「どのような夜間中学を目指すのか。」

- 仲間と一緒に学ぶ楽しさに関わる言葉として、「仲間と」や「協働的な」といった言葉を追加してはどうか。
- 何のために学校があるのか、県民のためにわかりやすいものであるべき。
- 「人生に遅すぎることはない」「思い立ったら今だ」といったメッセージがあるとともに、夜間中学には、あらためて人生の意味を再考する場となってほしい。
- 多様性の中で多様性を学べる場であってほしい。
- 多様な人がいる中でも、自分らしさが発揮できる学校であってほしい。
- 夜間中学は安心できる教育環境で、行きたい・学びたいと思える場にならないといけない。加えて、公立であれば、国の方針等にも沿うことも求められる。
- 「セーフティネット」「学びたいという思い」「学ぶことの楽しさ」といった重要なキーワードが盛り込まれている。



協議：課題2 入学要件「どのような方を夜間中学の入学対象者とするか。」

- 中学校までは義務教育として何とか卒業しても、実際に通うことができたかと言えば別の話。学校で十分に学ぶことができなかつた方も多くいることから、既卒者の受け入れは必要になる。
- 中学校卒業の資格を得ることができる場があることは、外国籍の方にとって大切。
- 「本国で義務教育を修了していない」という表記については、国ごとに教育制度が異なるため、表記の仕方を検討するとよい。
- 外国籍の方にとって、日本語学校ではないという認識をもっていたかかないと、民業圧迫につながってしまう。
- 他県で「義務教育の学び直し」という言葉を使っているのは、社会教育との差別化を図るためではないか。
- 義務教育の3年間をもう一度体験したいと思う方にとって、就学の機会を保障することは大切。中学校の3年間はかけがえのないもの。
- 丁寧な説明や面談等により、学校の教育理念や教育活動等を入学希望者に十分理解していただき、その上で自己決定していただくことが求められる。

- (事務局案) 入学要件
- 大分県に居住する満16歳以上の方で、以下のいずれかに該当する方
- 中学校を卒業していない方
 - 中学校の既卒者であるが、十分な学びを受けられなかった方
 - 本国で義務教育を修了していない外国籍の方

協議：課題4 ニーズ調査「必要な方に情報が届くには、どのような周知・広報活動を行えばよいか。」

- 既に活用しているFacebookやXに加え、若い方や外国籍の方のことを考えると、Instagramを活用するとよい。
- 夜間中学のことを広く知ってもらうため、委員の所属機関ホームページや各種研修会、イベント等において幅広く周知活動を行う。